

年表・日本海軍の艦隊編成

CHRONOLOGY OF IMPERIAL JAPANESE NAVY'S FLEET ORGANIZATION

by Tsutomu Nakagawa

中川 務



明治32年2月、呉に集結した常備艦隊。手前に停泊しているのは、30年12月20日付けで同艦隊に編入された富士型戦艦の八島である。

明治

- 3.7.28 普仏戦争に際し局外中立を守るため横浜、兵庫、長崎、函館に艦船の配備を決定し、初めて小艦隊を編成（実際に配備されたのは横浜のみ）。
- 3.7.28 小艦隊を廃止し提督府の下に第1、第2常備艦隊を置くよう改訂（計画のみで終わったりしく、実際に艦隊が置かれた記録はない）。
- 4.10.28 海軍概則で艦隊編成を大艦隊（軍艦12隻）、中艦隊（軍艦8隻）、小艦隊（軍艦4隻）とするよう規定。
- 5.5.18 初めて中艦隊を編成。
- 8.10.28 中艦隊を廃止し東部、西部指揮官の下に艦船14隻を配備するよう改訂（その後、東西鎮守府の設置が決定し9.9.5、まず東海鎮守府が発足したが、保有艦艇の不足から西海鎮守府の建設が見送られた結果、大半の艦艇が東海鎮守府に集中配備される状態が継続）。
- 15.10.12 中艦隊を復活（15.7.23の京城事変で清国が仮想敵国として浮上。洋上戦闘に適した艦隊の編成が急務になる）。
- 18.12.28 中艦隊を廃止し新鋭艦で構成した常備小艦隊を編成（従来の沿岸警備艦隊から対外戦を意識した外洋艦隊への脱皮が始まる）。
- 19.8.9 常備小艦隊に高速防護巡洋艦浪速、高千穂を編入。
- 22.7.29 常備小艦隊を常備艦隊と改称。
- 25.11.18 常備艦隊に清国の定遠型装甲艦に匹敵する巨砲を搭載した松島を編入。
- 27.7.13 警備艦隊（旧式艦で編成）を新編。
- 27.7.19 対清戦のため初めて連合艦隊（常備艦隊と西海艦隊…同日、警備艦隊を改称）を編成。
- 28.5.17 連合艦隊解隊。
- 28.11.15 西海艦隊解隊。常備艦隊のみの編成に復する。
- 30.12.20 常備艦隊に富士型戦艦を編入。ヨーロッパ列強の極東海軍力に比肩しうる艦隊戦力の保有を目指す。
- 32.6.12 各鎮守府に鎮守府艦隊を編成。
- 35.3.17 常備艦隊の一部で遣英艦隊を編成。イギリス国王戴冠式に派遣（11.28帰国解隊）。
- 35.10.29 三景艦による常備艦隊練習枝隊（練習艦隊の母体）を初めて編成。
- 36.3.10～4.12 大演習部隊東軍に臨時に連合艦隊を置き、その下に初めて第1、第2艦隊を編成。
- 36.12.15 鎮守府艦隊を廃止。
- 36.12.28 対ロシア戦のため常備艦隊を廃止、連合艦隊

- (第1, 第2艦隊, 付属隊艦船部隊)を編成。別途, 第3艦隊(37.3.4, 連合艦隊に編入)を新編。
- 38.6.14 樺太攻略作戦用の第4艦隊を新編し連合艦隊に編入。
- 38.12.20 連合艦隊解散。第3, 第4艦隊解隊(戦備の目標だったロシア海軍の消滅に伴い, 第1艦隊は装甲巡洋艦, 第2艦隊は海防艦と防護巡洋艦が主力になる。その反面, 海外警備の比重が増大し, 揚子江流域, 南清, 台湾沿岸の警備に当たる南清艦隊を新編。練習枝隊を練習艦隊と改称)。
- 40.1.15 第2艦隊に戦艦に準ずる主砲を搭載した装甲巡洋艦筑波を編入。
- 40.1.18 第1艦隊に香取型戦艦を編入, 以後復旧した戦利艦を編入しながら艦隊戦力の向上を図る。
- 40.1.22 第2艦隊の一部で遣外艦隊を編成。アメリカなどを訪問。11.16帰国解隊。
- 41.10.8~11.20 大演習のため第1, 第2, 第3艦隊で連合艦隊を編成。
- 41.10.17 米ホワイト・フリートの横浜来航接伴のため接伴艦隊を臨時編成。10.25解隊。
- 41.12.10 予備艦部(予備艦の管理に当たる)を廃止し, 各鎮守府に予備艦隊を設置。
- 41.12.24 南清艦隊を第3艦隊と改称。
- 42.1.1 練習艦隊の構成を三景艦から日露戦争の拿捕艦阿蘇, 宗谷に更新。
- 44.3.11 第2艦隊の一部で遣英艦隊を編成。イギリス国王戴冠式に派遣。11.22帰国解隊。
- 45.4.1 第1艦隊にト級戦艦河内を編入。

大 正

- 2.4.1 予備艦隊を鎮守府艦隊と改称。
- 2.12.1 第1艦隊に超ト級巡洋戦艦金剛を編入。日露戦争後の艦隊近代化が本格化する。
- 3.8.18 第1次大戦の勃発に伴い戦時編成に改編。新鋭艦で編成した第1艦隊を本土に温存し, 旧式艦からなる第2艦隊を青島攻略に充当。
- 3.8.23 ドイツに対する宣戦布告に伴い, 中立国である中国水域にあった第3艦隊は東支那海~南支那海交通線保護に任務を変更。
- 3.9.14 ドイツ東洋艦隊搜索のため第1南遣枝隊編成。
- 3.9.26 ドイツ東洋艦隊搜索のため, さらに第2南遣枝隊編成。
- 3.10.1 ヨーロッパ戦線派遣のオーストラリア, ニュージーランド軍護衛のため, 第1南遣枝隊を

- 特別南遣枝隊に改編。
- 3.11.19 北アメリカ西岸警備のため遣米枝隊を編成。
- 3.11.30 鎮守府艦隊を廃止。
- 4.2.1 第2南遣枝隊, 特別南遣枝隊解隊。
- 4.5.7 遣米枝隊解隊。
- 4.9.1 練習艦隊の構成を日露戦争の拿捕艦から装甲巡洋艦に変更。
- 4.11.1~15 大演習のため第1, 第2, 第3艦隊で連合艦隊を編成。
- 4.12.13 第1艦隊に超ト級戦艦扶桑を編入。第2艦隊の主力を旧式戦艦から金剛型巡洋戦艦3隻に更新, 同艦隊は強力な前衛索敵部隊となる。第1艦隊に初めて潜水戦隊(当初, 第4水雷戦隊と称する)を, 第2艦隊に平時編成として初めて水雷戦隊を編入。
- 5.3.20 ロシアに譲渡する丹後など護送のため, 特務艦隊を編成。4.8任務を終え帰国後解隊。
- 5.9.1~10.14 小演習のため第1, 第2, 第3艦隊で連合艦隊を編成。
- 6.2.7 インド洋の交通線保護のため第1特務艦隊を, 地中海の護衛作戦のため第2特務艦隊を編成。
- 6.4.13 オーストラリア方面交通線保護のため第3特務艦隊を編成。
- 6.8.14 中国の対ドイツ宣戦布告に伴い第3艦隊の中国警備任務が復活。
- 6.10.1~22 小演習のため第1, 第2, 第3艦隊で連合艦隊を編成。
- 6.12.12 第3特務艦隊解隊。
- 7.1.12 ロシア革命に対処して第3艦隊の石見がウラジオストクに入港。以降, 同艦隊は主としてシベリア作戦に従事。
- 7.8.10 中国警備を専任とする遣支艦隊(6.12.15,

大正2年12月
1日付けて第
1艦隊に編入
された超ト級
巡洋戦艦金剛。



揚子江流域における南北軍の紛争激化に対処して第3艦隊の麾下に編成された第7戦隊(母体)を編成。

7.9.1~10.15 対抗演習のため第1、第2艦隊で連合艦隊を編成。

8.6.1~10.28 第1、第2艦隊で連合艦隊を編成(10.11~24、特別大演習を施行)。

8.8.9 第1、第2特務艦隊解隊。遣支艦隊を第1遣外艦隊と改称。東支那海~アングマン諸島の警備を担当する第2遣外艦隊を編成。

9.5.1~10.5 第1、第2艦隊で連合艦隊を編成。

9.9.1 第2艦隊に新鋭軽巡球磨を編入、偵察部隊の近代化が始まる。

9.12.1 第1艦隊に41センチ砲搭載戦艦長門を編入。第2遣外艦隊解隊。

10.5.1~10.31 第1、第2艦隊で連合艦隊を編成。10.21~27小演習を施行。

10.12.1 経費削減のため11年度の第2艦隊を編成せず(軍縮の影響で一時、艦隊編成を縮小)。

11.12.1 第1、第2艦隊で連合艦隊を編成(以後、常時編成が慣例化する)。シベリア撤兵に伴い第3艦隊を解隊。

11.4.15~14.4.15 八八艦隊計画に伴って採用した多数の候補生遠航のため、練習艦隊が3隻編成に膨張。この反動で14~15年度の遠航は単艦になり練習艦隊を編成せず。

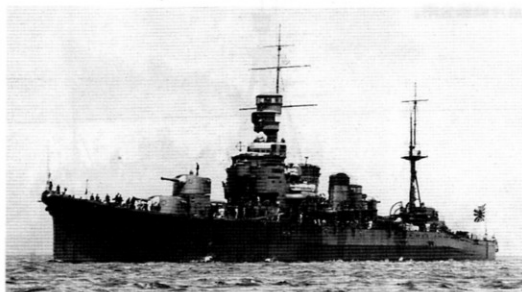
13.9.1 第1艦隊に初めて空母鳳翔を編入。

15.4.1 第2艦隊に初めて20センチ砲搭載の偵察巡洋艦古鷹、加古を編入。

昭和

2.5.16 第1次山東出兵に際し、華北警備担当のために第2遣外艦隊を再編。

4.11.30 第2艦隊の主力を金剛型巡洋戦艦から妙高型重巡に改編。これに青葉型、古鷹型重巡、特型駆逐艦、海大型潜水艦を加えた本艦隊は、



大正15年4月1日付けで第2艦隊に編入された偵察巡洋艦古鷹。

迎撃決戦時の漸減部隊の性格を一層鮮明にする。

7.2.2 上海事変勃発に伴い同方面の作戦を担当する第3艦隊を再編。

8.4.20 第2遣外艦隊解隊

8.5.20 連合艦隊の常設が制度化する。本年から11年まで年度戦時編成に近い大演習部隊(第4艦隊)による長期演習を毎年施行。第1遣外艦隊を解隊し第3艦隊に吸収。

9.11.15 第2艦隊に初めて航空戦隊を編入。第1艦隊所属を含み2個航空戦隊の時代に入る。

11.6.1 第1艦隊に改装を完了した金剛型高速戦艦で編成した第3戦隊を編入。

12.10.20 日中戦争の推移に鑑み支那方面艦隊を新編。その下に第3艦隊および華北作戦用に同日付けで新編した第4艦隊を置く。

13.2.1 支那方面艦隊の指揮下に華南作戦用の第5艦隊を新編。

14.11.15 第1、第2艦隊に水雷戦隊各2隊を編入。戦時編成への移行が始まる。第3艦隊を第1遣支艦隊、第4艦隊を第2遣支艦隊。第5艦隊を第3遣支艦隊と改称。第2次大戦勃発に伴う南洋群島防備のため第4艦隊を再編。

15.6.1 練習艦隊の構成を旧式装甲巡洋艦から練習巡洋艦香取型に更新。

15.9.20 15年度練習艦隊解隊(大戦勃発のため以後、練習艦隊は編成されなかった)。

15.11.15 潜水艦部隊を集中した第6艦隊を新編。

16.1.15 基地航空部隊を総合した第11航空艦隊を新編。

16.4.10 世界最初の空母集団である第1航空艦隊を新編。要地攻略、海上護衛、上陸、港湾防備用に第3艦隊を再編。

16.7.25 対ソ戦を考慮し日本海、沿海州方面作戦用に第5艦隊を再編。

16.7.31 仏印進駐に伴い同方面警備用に南遣艦隊を新編。

16.9.1 戦時編成を発動。以下の艦隊編成で開戦に臨む。

連合艦隊：第1、第2、第3、第4、第5、

第6艦隊、第1、第11航空艦隊

支那方面艦隊：第1、第2、第3遣支艦隊

南遣艦隊(16.12.21、連合艦隊に編入)

16.12.16 連合艦隊に46センチ砲搭載戦艦大和を編入。

17.1.3 南遣艦隊を第1南遣艦隊と改称。比島作戦用に第3南遣艦隊を新編。

17.3.10 第3艦隊を東南アジア地区警備用の第2南遣艦隊に再編。

- 17.4.10 第1, 第2, 第3南遣艦隊統括のため南西方面艦隊を新編。第3遣支艦隊解隊。
- 17.7.14 ミッドウェー海戦で惨敗の結果, 第1航空艦隊を解隊。新たに空母を中心に各種艦艇を総合した第3艦隊を再編。外南洋警備に当たる第8艦隊を新編。
- 17.12.24 南東太平洋作戦の指揮統一のため南東方面艦隊を新編。第8艦隊, 第11航空艦隊を指揮下に置く。
- 18.5.18 北東方面作戦にあたる第12航空艦隊(基地航空部隊)を新編。
- 18.7.1 第1航空艦隊を基地航空部隊として再編。
- 18.8.5 北東方面作戦の指揮統一のため北東方面艦隊を新編。第5艦隊, 第12航空艦隊を指揮下に置く。
- 18.8.20 第1遣支艦隊解隊, 揚子江方面特別根拠地隊に改編。
- 18.9.20 南西方面作戦にあたる第13航空艦隊(基地航空部隊)を新編。
- 18.11.11 西部ニューギニア作戦用として南西方面艦隊の指揮下に第4南遣艦隊を新編。
- 18.11.15 東部ニューギニア作戦用として南東方面艦隊の指揮下に第9艦隊を新編。海上護衛の重要性に鑑み, 連合艦隊と並立する組織として海上護衛総隊を設置。
- 19.2.25 第1艦隊解隊。長年の伝統だった戦艦中心の大艦巨砲主義と訣別する。
- 19.3.1 決戦部隊の全力を結集した第1機動艦隊(第2, 第3艦隊基幹)を新編。
- 19.3.4 中部太平洋作戦の指揮統一のため中部太平洋艦隊を新編。第4艦隊および同日編成の第14航空艦隊(基地航空部隊)を指揮下に置く。
- 19.6.15 九州, 南西諸島方面で作戦に当たる第2航空艦隊(基地航空部隊)を新編。
- 19.6.19~20 決戦兵力の第1機動艦隊と第1航空艦隊がマリアナ沖海戦で敗退。
- 19.7.10 第9艦隊解隊。(19.3.25, 南西方面艦隊の指揮下に入り, 19.4.22, ホランディアで玉砕)。関東地区で作戦に当たる第3航空艦隊(基地航空部隊)を新編。
- 19.7.18 中部太平洋艦隊, 第14航空艦隊解隊(19.7.10, マリアナで玉砕)。
- 19.10.23~25 比島沖海戦で第2, 第3, 第5艦隊の大半を喪失。
- 19.11.15 第1機動艦隊, 第3艦隊を解隊。
- 19.12.5 北東方面艦隊を解隊。
- 19.12.10 第1護衛艦隊(17.4.10編成の第1海上護衛



太平洋戦争終結直後, 呉に保留中の駆逐艦。終戦時は連合艦隊第31戦隊隷下の第52駆逐隊に所属していた。

- 隊が母体)を新編。海上護衛総隊の指揮下に置く。
- 20.1.8 第2航空艦隊解隊。
- 20.2.5 第5艦隊解隊。マレー方面作戦の指揮統一のため第10方面艦隊を新編。第1南遣艦隊と第13航空艦隊を指揮下に入れる。
- 20.2.10 九州方面の作戦に当たる第5航空艦隊(基地航空部隊)を新編。
- 20.3.1 本土決戦のため第10航空艦隊(練習航空総隊を母体)を新編。
- 20.3.10 第4南遣艦隊解隊。
- 20.4.7 大和以下の第2艦隊残存兵力が沖縄に向け特攻攻撃し壊滅。
- 20.4.10 対馬海峡防衛のため第7艦隊を新編。
- 20.4.20 第2艦隊解隊(南方からの油運途絶により大型水上艦の洋上使用を断念)。
- 20.4.25 海軍総隊を新設。戦線の収縮に対応して全海軍部隊(連合艦隊, 海上護衛総隊, 支那方面艦隊)の統一指揮を図る。
- 20.5.29 戦線が本土周辺に迫ったのに伴い, 連合艦隊の負担軽減のため南西方面艦隊(第3南遣艦隊), 南東方面艦隊(第8艦隊, 第11航空艦隊)を大本营直轄に変更。
- 20.6.15 第1航空艦隊解隊。
- 20.8.15 太平洋戦争終結。この時点の艦隊編成。
- 海軍総隊
- 連合艦隊: 第4, 第6, 第7艦隊。第3, 第5, 第10, 第12航空艦隊, 第10方面艦隊(第1, 第2南遣艦隊, 第13航空艦隊)
- 海上護衛総隊: 第1護衛艦隊
- 支那方面艦隊: 第2遣支艦隊
- 大本营直轄
- 南東方面艦隊: 第8艦隊, 第11航空艦隊
- 南西方面艦隊: 第3南遣艦隊